

平成23年6月31日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20390572

研究課題名（和文）大学院教育を地域貢献に活かす保健師等のコンピテンシー開発

研究課題名（英文）Development of a Graduate School Program to Enhance the Competency of Public Health Nurses, etc to Contribute to the Local Community.

研究代表者

岡本 玲子（OKAMOTO REIKO）

岡山大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：60269850

研究成果の概要（和文）：

近年、健康課題の多様化・深刻化に伴い、保健師に求められる役割が拡大・高度化している。本研究の目的は、大学院博士前期課程の科目で実施する、保健師等のコンピテンシーを高めるための学習成果創成型プログラムを開発し効果を検証すること、及びそれを地域貢献に活かすよう普及することである。

プログラムは、2回の試行と修正を経て開発された。プログラムのコンセプトは「私の学び、明日への貢献」であり、4か月間にグループ・セッションが5回、その間の個別面接4回で構成されている。期間中参加者は、現場の課題と、それを解決する自分の学習課題を明確にして、自分で決定した到達目標の達成に向けて取り組む。研究者は学習支援者として、参加者の学習成果が最大になるように支援した。

プログラムを実施した結果、以下の結果に示す一定の効果が検証された。前後のアウトカム評価では、参加者の専門性発展力や公衆衛生の基本活動遂行能力、事業・社会資源の創出コンピテンシー、住民の力量を高める能力、活動の必要性と成果を見せる能力など多様な能力が有意に高まっていた。さらに、プログラム実施後の参加者の満足度と、費用に見合う効果を得られたと思う程度は高かった。また、参加者の学習プロセスにおいては、1)現状と課題への気づき、2)改善計画の実行、3)改善した成果の確認という3つの必須通過点が確認された。

本プログラムは今後、大学院教育や大学と連携した自治体や企業、看護協会保健師職能による現任教育への適用可能性がある。

研究成果の概要（英文）：

In recent years, accompanying the increased diversification and growing seriousness of health concerns, the duties demanded of public health nurses has been expanding and becoming more sophisticated. The objective of this research project is to develop and verify the achievements of a study achievement creation program to enhance the competency of public health nurses, etc., that is carried out in the curriculum for the first half of a graduate school doctorate course.

The program was developed upon undergoing a process of two test trials and corrections. The program's concept is "what I learn will contribute to tomorrow," and the program is composed of five group sessions during a four-month period and four individual interviews conducted between the group sessions. During this period, the participants clearly define the problems seen in the field and their own themes of study to resolve them, and then work toward the attainment of the achievement target(s) that they decide on their own. The researchers, acting as study supporters, assist to maximize the participants' study achievements.

As a result of implementing the program, a certain degree of success, as indicated as follows, was

verified. In the before-and-after outcome assessment, participant A exhibited a significant degree of advancement. Furthermore, the degree of satisfaction scores of the participants after program implementation were high enough to be able to regard that results worthy of the cost expended were obtained. In addition, it was ascertained that the essential stages of passage, 1) awareness of the actual conditions and of the problems concerned; 2) implementation of an improvement plan; 3) confirmation of improvements, were present in the study process of the participants.

In the future, there is a possibility that this program will be applied in graduate school education and the education of active service public health nurses by municipal governments or companies working in cooperation with universities and nursing associations for public health nurses.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2009年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2010年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
年度			
年度			
総計	15,000,000	4,500,000	19,500,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学、地域・老年看護学

キーワード：公衆衛生看護学、保健師、大学院教育、地域貢献、コンピテンシー、教育プログラム開発

1. 研究開始当初の背景

近年、虐待や自殺の防止、健康危機管理、生活習慣病予防など、社会が保健師に求める役割は拡大しており、保健師にはそれに対応する高度な専門能力が求められている。多様で複雑な要因を背景に持ち常に変化する健康課題への対応には、単に知識と技術を修得するだけではなく、その時々々の状況への最善の判断と行動により成果をあげる力（コンピテンシー）を高める必要があるが、そのための教育方法の開発は進んでいない。

2. 研究の目的

そこで本研究は、先行研究の成果を土台にして、保健師のコンピテンシーを高める学習

成果創出型プログラム（以下プログラムと略）と評価指標を開発し、大学院教育と現場で実践する保健師等に用いて、学習者の専門能力向上と地域貢献への効果を実証し、その方法を広く普及することを目的とした。

3. 研究の方法

土台となるプログラムは、2回の試行と修正を経て開発された。プログラムのコンセプトは「私の学び、明日への貢献」であり、4か月にグループ・セッションが5回、その間の個別面接4回で構成されている。期間中参加者は、現場の課題と、それを解決する自分の学習課題を明確にして、自分で決定した到達目標の達成に向けて取り組む。研究者は学習支援者

として、参加者の学習成果が最大になるように支援する。対象は、2008年10月から2010年3月までの3期にプログラムを受講した保健師8名であり、うち4名が大学院生、4名が科目履修生であった。プログラムのアウトカムは、プログラム実施前後のコンピテンシーの測定により評価し、プロセス評価は、参加者に1)現状と課題への気づき、2)改善計画の実行、3)改善した成果の確認という3つの必須通過点があったかどうかによって評価した。

4. 研究成果

平成20年度前期に大学院前期課程用に開発した教育プログラムを試行し、その後期から平成21・22年度の前期・後期と実施し効果を検証した。前後のアウトカム評価では、参加者の専門性発展力や公衆衛生の基本活動遂行能力、事業・社会資源の創出コンピテンシー、住民の力量を高める能力、活動の必要性と成果を見せる能力など多様な能力が有意に高まっていた。さらに、プログラム実施後の参加者の満足度と、費用に見合う効果を得られたと思う程度は高かった。また、参加者の学習プロセスにおいては、方法に示した必須通過点が確認された。

また、保健所・保健センター出前用の教育プログラムを並行して開発し、期間中3フィールドで実施・評価した。

教育プログラムと教材、教育体制モデルの活用可能性について、自治体の現任教育担当者を対象に調査を行ったところ (n=384)、活用可能性ありとの回答は、都道府県56.5%、政令指定都市等48.5%、市町村40.9%と都道府県で高かった。

教育プログラムは、学外研究者にクリティークを受け随時修正を加えた。平成21年度にはロンドンシティ大学からは研究者1名を招聘し、教育プログラムの参加観察を実施して

もらうとともに、研究プロセスと評価方法についてもクリティークを受け、最終の22年度は、その結果に基づきプログラムの内容を検討し報告書を作成した。

本プログラムは今後、大学院教育や大学と連携した自治体や企業、看護協会保健師職能による現任教育への適用可能性がある。今後のプログラム充実に向けては、多様な状況に応じた学習支援方法の確立、教材の開発、質的評価指標の開発、学習支援者育成方法・体制の確立といった課題がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計11件)

【学術論文】

- ①岡本玲子, 谷垣静子, 岩本里織, 草野恵美子, 小出恵子, 鳩野洋子, 岡田麻里, 塩見美抄, 小寺さやか, 俵志江, 星田ゆかり, 福川京子, 茅野裕美, 尾ノ井美由紀. 保健師等のコンピテンシーを高める学習成果創出型プログラムの開発～大学院の地域貢献を目指すアクションリサーチの一貫として～. 日本公衆衛生雑誌(2011); (掲載予定)(査読有)
 - ②岡本玲子, 岩本里織, 塩見美抄, 小寺さやか. 保健師の専門性発展力尺度の開発と信頼性・妥当性の検証. 日本公衆衛生雑誌(2010); 57(5): 355-365 (査読有)
 - ③塩見美抄, 岡本玲子, 岩本里織. 事業・社会資源の創出に関する保健師のコンピテンシー評価尺度の開発 信頼性・妥当性の検討. 日本公衆衛生雑誌(2009); 56(6): 391-401 (査読有)
 - ④井上清美, 岡本玲子. 保健師の自己学習行動と専門能力向上意識の関連. 神戸市看護大学紀要(2009); 別冊13: 29-40 (査読有)
 - ⑤岩本里織, 岡本玲子, 塩見美抄. 「公衆衛生基本活動遂行尺度」の開発と信頼性・妥当性の検証 保健師の全国調査から. 日本公衆衛生雑誌(2008); 55(9): 629-639 (査読有)
- 【総説】
- ⑥岡本玲子. イギリスにおける保健師教育の現状. 公衆衛生(2010); 74(7): 571-575(査読無)

- ⑦小寺さやか, 鳩野洋子, 岡本玲子, 合田加代子, 草野恵美子. 英国に探る「保健師教育の質保証」～住民の健康と安全を護る実践能力の土台を築くために～ その3 実習指導者の質保証. 公衆衛生情報(2010); 39(11): 38-43(査読無)
- ⑧草野恵美子, 岡本玲子, 鳩野洋子, 小寺さやか, 合田加代子. 英国に探る「保健師教育の質保証」～住民の健康と安全を護る実践能力の土台を築くために～ その2 「高等教育枠組み」と保健師教育. 公衆衛生情報(2010); 39(10): 46-50(査読無)
- ⑨岡本玲子, 合田加代子, 鳩野洋子, 草野恵美子, 小寺さやか. 英国に探る「保健師教育の質保証」～住民の健康と安全を護る実践能力の土台を築くために～ その1 保健師教育課程の実際例. 公衆衛生情報(2009); 39(9): 24-29(査読無)
- ⑩岡本玲子. 特集—私の「保健師必要論」. 月刊地域保健(2009); 2009年9月号: 36-40(査読無)
- ⑪岡本玲子. 英国における保健師教育. 保健師ジャーナル(2008); 64(5): 432-436(査読無)
- [学会発表] (計20件)
- ① Reiko Okamoto, Keiko Koide: The effectiveness of the competency development program for newly employed public health nurses. APHA 138th Annual Meeting&Expo(Denver, USA). 2010/11/6～10
- ②岡本玲子, 小出恵子, 那須潤子, 高木由里: 自治体と大学との協働による新人・指導保健師への成果創出型年間研修の成果(1). 第69回日本公衆衛生学会総会(東京). 2010/10/28
- ③小出恵子, 岡本玲子, 那須潤子, 高木由里: 自治体と大学との協働による新人・指導保健師への成果創出型年間研修の成果(2). 第69回日本公衆衛生学会総会(東京). 2010/10/28
- ④那須潤子, 高木由里, 岡本玲子, 小出恵子: 自治体と大学との協働による新人・指導保健師への成果創出型年間研修の成果(3). 第69回日本公衆衛生学会総会(東京). 2010/10/28
- ⑤高木由里, 那須潤子, 岡本玲子, 小出恵子: 自治体と大学との協働による新人・指導保

健師への成果創出型年間研修の成果(4). 第69回日本公衆衛生学会総会(東京). 2010/10/28

- ⑥岡本玲子, 小出恵子, 谷垣静子, 小寺さやか, 岩本里織, 鳩野洋子, 草野恵美子: 保健師等のコンピテンシーを高める学習支援プログラムにおける経験年数による専門能力の変化の特徴. 日本地域看護学会第13回学術集会(北海道). 2010/7/10
- ⑦小出恵子, 岡本玲子, 谷垣静子, 小寺さやか, 草野恵美子: 保健師等のコンピテンシーを高める学習支援プログラムの実施—新人保健師の学習成果に焦点をあてて—. 日本地域看護学会第13回学術集会(北海道). 2010/7/10
- ⑧岩本里織, 岡本玲子, 岡田麻里, 小寺さやか: 保健師等のコンピテンシーを高める学習支援プログラムの実施1 参加者の変化と変化を促進する自己要因の分析. 第29回日本看護科学学会学術集会(千葉). 2009/11/27
- ⑨岡田麻里, 岡本玲子, 岩本里織, 小寺さやか: 保健師等のコンピテンシーを高める学習支援プログラムの実施2 —参加者の変化と変化を促進する学習支援方法—. 第29回日本看護科学学会学術集会(千葉). 2009/11/27
- ⑩小寺さやか, 岡本玲子, 谷垣静子, 俵志江: 保健師のコンピテンシーを高める学習支援プログラムの評価. 第68回日本公衆衛生学会総会(奈良). 2009/10/22
- ⑪Reiko Okamoto, Emiko Kusano, Shizuko Tanigaki, Sayaka Kotera, Saori Iwamoto, Yoko Hatono, Shinobu Tawara, Mari Okada: Development of a Reflection Sheet for Public Health Nurses to Improve their Competencies in Japan. The 4th international conference on community health nursing research(Australia). 2009/8/17～20
- ⑫Sayaka Kotera, Reiko Okamoto, Saori Iwamoto, Misa Shiomi, Yuko Tanaka: Attitudes towards competency for professional development among public health nurses in Japan: a semi-structured analysis by text mining. The 4th international conference on community health nursing research(Australia). 2009/8/17～20

⑬岡本玲子, 谷垣静子, 小寺さやか, 俵志江, 岩本里織, 鳩野洋子, 草野恵美子, 岡田麻里: 保健師等のコンピテンシーを高める学習支援プログラムの実施(1) ~ 試行を経て大学院用開発に至るアクションリサーチ~. 日本地域看護学会第12回学術集会(千葉). 2009/8/9

⑭小寺さやか, 谷垣静子, 岡本玲子, 鳩野洋子, 俵志江: 保健師等のコンピテンシーを高める学習支援プログラムの実施(2) ~ 経験年数別の~学習ニーズと学習過程の特徴~. 日本地域看護学会第12回学術集会(千葉). 2009/8/9

⑮俵志江, 岡本玲子, 谷垣静子, 草野恵美子, 小寺さやか: 保健師等のコンピテンシーを高める学習支援プログラムの実施(3) ~ 学習課題に取り組む若手のリフレクション過程~. 日本地域看護学会第12回学術集会(千葉). 2009/8/9

⑯岡本玲子, 小寺さやか, 岩本里織, 田中祐子, 草野恵美子, 鳩野洋子: 保健師の学習意欲を高める方法に関する現任教育担当者の意見-テキストマイニングツールを用いた分析-. 第28回日本看護科学学会学術集会(福岡). 2008/12/14

⑰岩本里織, 岡本玲子: 保健師の「公衆衛生を護る」能力の発展に影響する要因の検討. 第28回日本看護科学学会学術集会(福岡). 2008/12/14

⑱小寺さやか, 岡本玲子, 田中祐子: 保健師の専門性発展力の都道府県・政令市等・市町村別比較. 第28回日本看護科学学会学術集会(福岡). 2008/12/14

⑲小寺さやか, 岡本玲子, 田中祐子: 保健師の専門能力自己評価と現任教育に関する検討-新人とベテランの比較を通して-. 第67回日本公衆衛生学会総会(福岡). 2008/11/7

⑳岡本玲子, 千葉由美, 岩本里織, 小寺さやか, 井上清美: 保健師の専門性発展力に関する要因~経験年数群別分析~. 日本地域看護学会第11回学術集会(沖縄). 2008/7/5

[その他]

ホームページ等

<http://www.phnspace.umin.jp/home.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本 玲子 (OKAMOTO REIKO)

岡山大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号: 60269850

(2) 研究分担者

谷垣 静子 (TANIGAKI SHIZUKO)
岡山大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号: 80263143 (H20-H22)

小出 恵子 (KOIDE KEIKO)
岡山大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号: 40550215 (H21, H22)

鳩野 洋子 (HATONO YOUKO)
九州大学・大学院医学研究院・教授
研究者番号: 20260268 (H20-H22)

岩本 里織 (IWAMOTO SAORI)
神戸市看護大学・看護学部・准教授
研究者番号: 20321276 (H20-H22)

草野 恵美子 (KUSANO EMIKO)
千里金蘭大学・看護学部・准教授
研究者番号: 70346419 (H21, H22)

小寺 さやか (KOTERA SAYAKA)
岡山大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号: 30509617 (H20, H21)

(3) 連携研究者

岡田 麻里 (OKADA MARI)
岡山大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号: 90534800 (H20-H22)

塩見 美抄 (SHIOMI MISA)
兵庫県立大学・看護学部・講師
研究者番号: 10362766 (H20-H22)

合田 加代子 (GOUDA KAYOKO)
香川県立保健医療大学・保健医療学部
・准教授
研究者番号: 20353146 (H20-H22)

井上 清美 (INOUE KIYOMI)
神戸常磐大学・保健科学部・准教授
研究者番号: 20511934 (H20-H22)

尾ノ井 美由紀 (ONOI MIYUKI)
大阪大学・大学院医学系研究科・講師
研究者番号: 70324788 (H20-22)

松原 三智子
札幌医科大学・保健医療学部・講師
研究者番号: 20304115 (H20-H22)

岡本 里香 (OKAMOTO RIKA)

大阪医科大学・看護学部・講師
研究者番号：10280009 (H20-H22)

小野 美穂
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師
研究者番号：20403470 (H20-H22)

金藤 亜紀子
広島大学大学院・保健学研究科・助教
研究者番号：80432722 (H20-H22)

田中 祐子
聖泉大学・看護学部・准教授
研究者番号：10535800 (H20-H22)

(4) 研究協力者

星田 ゆかり (HOSHIDA YUKARI)
岡山大学・大学院保健学研究科・
博士前期課程
(H22)

茅野 裕美 (KAYANO HIROMI)
岡山大学大学院・保健学研究科・
博士前期課程
(H22)

福川 京子 (HUKUKAWA KYOUKO)
岡山大学大学院・保健学研究科・
博士後期課程
(H22)

俵 志江 (TAWARA SHINOBU)
岡山大学大学院・保健学研究科・
博士後期課程
(H20, H21)

長野 扶佐美 (NAGANO FUSAMI)
岡山大学・大学院保健学研究科・
博士前期課程
(H22)